

北上地区

ヨシ原の景観を生かした 北上水辺センターがオープン

4月4日(火)、北上地区の新北上大橋付近に「石巻市北上水辺センター」がオープンしました。

この水辺センターは、水辺プラザ整備事業として国土交通省と市が協力して整備を進めてきたもので、水辺環境を活用した交流活動や学習・体験活動の場として、市民の皆さんに利用していただくことを目的としています。

センター内には、休憩所、トイレ、あずまや、ピクニック広場などが整備されています。訪れた人は、眼前に広がる北上川の広大なヨシ原の景観や現在開催中の「第6回にっこり写真コンクール」の写真展を楽しんでいます。



鹿地区

鮎川で鯨類捕獲調査

(調査捕鯨) 始まる!!

4月12日(水)から鮎川港を基地にして、三陸沖鯨類捕獲調査が始まりました。この調査は、国際捕鯨取締条約に基づき、沿岸漁業と鯨類の競合を調べるために行われています。

調査内容は、鮎川港を中心に半径約80キロメートルの範囲内で、ミンククジラ60頭を捕獲して、体長、年齢のほか、胃の内容物などを調べて、どのようなものをどれくらい食べているのかなどを調べることがなっています。クジラの年齢は、耳の中にある耳垢柱という組織が、木の年輪のように1年に1組の成長層が蓄積されるため、その本数を数えることでクジラの年齢が分かるようになっています。

調査船団は、捕獲調査船4隻、目視調査船1隻、餌生物調査船2隻から組織されており、捕獲調査船の中には、鮎川港を母港にしてツチクジラ漁やゴンドウクジラ漁を営んでいる小型捕鯨船が所属しています。

昔から「鯨一頭七浦溜り(鯨一頭を捕獲すれば、周辺の地域が潤う)」と言われる、捕鯨全盛当時の鮎川町においては、鮎川港で水揚げされたクジラに対し、「鯨税」というユニークな税金が課されて



ていました。

調査期間中の鮎川港は、当時の比ではないでしょうが、捕鯨基地として繁栄していたころの一端を垣間見ることが出来るかもしれません。また、期間中は、クジラの水揚げ風景や小型捕鯨船なども見ることが出来るかもしれませんので、一度鮎川港に行ってみてはいかがでしょうか。(調査期間は5月31日までとなっていますが、捕獲頭数が予定頭数(60頭)に到達した場合などは、期間を前倒しして終了する場合があります)

巻区 石地

中央児童館がオープン

4月1日(土)、市民待望の中央児童館が開館しました。

児童館は、児童に安全・健全な遊びを提供して、遊びをおして子どもたちが自ら地域での生活を楽しみ、仲間をつくり心身ともに健やかに育つことを目的とした施設です。

開館の日は、関係者がテープカットを行い、石巻保育所の年長児童が歌と鼓隊演奏で、オープンを祝いました。訪れた子どもたちは、早速本を読んだり、友達との遊びを楽しんだりしていました。

児童館は、18歳未満のすべての児童が、予約不要で自由に来館・利用できるほか、子育て支援の場としても使われます。

所在地 石巻市泉町一丁目1番2号
(石巻小学校となり)
☎ 23・7406

開館日 火・水・金・土・日曜日
利用時間 午前9時30分～正午
午後1時～5時

休館日 月・木・祝日・年末年始
(12月29日～1月3日)



ともに大きくなるように、願いをこめて

これは市内の企業から、市の環境美化促進運動に対するご協力・ご賛同をいただいたことから、合併による新市の花「つつじ」の認識を広く深めるため行ったものです。

《ご協力いただいた市内企業の皆さん》

東北電力(株)石巻営業所、石巻市場(株)、石巻市水産振興協議会、石巻魚市場買受人協同組合、石巻金融団、セイホク株式会社、セイホク協力会、(株)石巻リバーサイドホテル、宮城ヤンマー(株)、いしのみき農業協同組合、石巻地区森林組合、南光運輸(株)、鉄鋼団地連絡協議会(株)山、石巻合板工業(株)



市では4月10日(月)、11日(火)の二日間、市内の各小学校で行われた入学式で、新入学児童に、市の花「つつじ」をプレゼントしました。

駅前到新名所誕生

3月26日(月)、JR石巻駅前に、からくり時計が完成し、除幕式が行われました。午前7時から午後7時まで1時間ごとにシーエッター海斗のテーマ曲に合わせて、マンガキヤラクター達が動きまわる仕掛けになっています。

シーエッター海斗をはじめとする関係者が紅白の紐を引いて時計を覆っています。



た幕が取り除かれると、すべてからくり時計が動き出し時を告げました。